

工藤先生に贈る

安東 大隆

本年三月をもって工藤茂先生が年限が満ちて御退職になる。

振り返って見ると昭和五十一年より本年まで、国文学科にあつて研究と学生の指導に携わつて来られた。その間に学生部長・文学部長などの要職を歴任された。研究の中心は近・現代文学であり、特に「井上 靖」の研究を専門とされていた。

研究の仕方は、原文に即しつづつ事実を積み重ねていくという手堅いものであつた。その姿勢のよつてくるところは、先生御自身の人となりによるものかと拝察している。その人となりは温厚であり、円満であつた。そして又、心篤き人でもあつた。先生に接した国文学科の学生はもとより多くの縁ある人々の共通の認識であらう。

又、大学院の設置にも積極的に取り組んで来られた。おかげをもつて平成九年に国文学科の上に大学院「日本語日本文学専攻」が設置された。そして、その博士後期課程の修了者による本学第一号博士が先般誕生した。その学位記授与式に参列していただいたのも、意義深いものであつたと思う。

私学、就中、国文学科を取り巻く情勢は、厳しいものがある。これから総知を集めて進むべき道を模索すべき時に先生が大学を去つてしまわれることは、本当に残念であり、痛手である。が、何事にも限りはあることであるのでと思いを断つて、先生の御教示の道を進んでいきたいものである。

そのことをもつて積年の感謝の気持ちにしたいと思う。